小堀杏奴編

森　鷗外

妻への手紙

岩波新書

17

小堀杏奴編

森　鷗外

妻への手紙

岩波新書

17

森鷗外 妻への手紙　　岩波新書(赤版)　17

1938年11月20日　第1刷発行
1982年 3 月19日　特装版発行 ©

定価 800円

編　者　小堀杏奴

発行者　緑川亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
発行所　㈱岩波書店
電話 03-265-4111
振替 東京 6-26240

印刷・三秀舎　製本・文勇堂

落丁本・乱丁本はお取替いたします　Printed in Japan

明治三十七年

＊一より一三九までは出征第二軍軍醫部より東京市芝區明舟町十九番地荒木藤方森しげ子宛

一〔三月二十九日〕

手紙は昨日來たよ。今の内案じてくれて、段々に忘れるやうではうれしくない。茉莉を大事にして待つて居ておくれ。○廣嶋に來てから八日目だが、ろくな用事もなくてつまらぬから、早く舟が出れば好いと思つて居る。天氣は一日雨が降つたばかりで、大抵晴天だ。桃が咲いて居る。晝は馬で一里位の處へ遊びに出る。山の上の茶店で蜜柑を食つて歸る位のものだよ。○ろくが居てくれるやうになつて大安心だね。あんな用立つ女は外にはないから、無理を云はずに使ふが好い。○荒木の皆さんえいちやんなどによろしく云つておくれ。

二十九日

林

やんちやのしげ子どの

二〔四月四日〕

只今手紙が來たが日附がない。消印もぼんやりして居るが二日のだらうとおもふ。手紙には日づけをするものだよ。○こちらは天氣は久しく好かつたがけふは雨で外へ出られなかつた。昨日までに馬丁や從卒は宮嶋へ見物に行つたがおれは宮嶋なんぞはみたくはないから往かない。あまり長く滯留して居ると兵隊がつまらないことをしてならないから早く舟にのりたいものだよ。○手紙はいくらでも遠慮なしによこして好いよ。おれの處へは色々な手紙が毎日十本づゝ位來るのだからやんちやのが其中にまじつて居たつて目立ちはしないよ。○皆さんによろしく

四月四日夜

林

やんちや殿

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

三〔四月七日〕

四月四日夜の手紙がけふ屆いた。日蓮を看に往つたさうだね。どうせ戰爭最中に興行させるのだから大當りはむつかしいがかなりに當れば滿足なのさ。御ひいきの羽左衛門が大さう綺麗だと外からも言つて來て居る。度々見たいなんぞと云つて羽左衛門ばかしながめて居ては困るよ。○廣嶋で遊興をするだらうなどといふのは大間違だ。此前に來て居た近衛が病人の半分は惡い病であつたといふので今度は上のものが手本になつて取締まるのだ。今度は何萬といふ兵隊がもう十五日も居るが惡い病をここで發したものはまだ殆ど無い位だ。今度の連中は立派なものだよ。○茉莉の食ものに氣を付けて病氣にせぬやうにせねばいけないよ。遊ばせるにはあまりさわがしくしないやうにわけもないにあらがはぬやうにお前さんのやうにやんちやにならないやうに物しづかなすなほな子になるやうに氣をお付けよ。外へつれて出ておとなが手を引いてあるかせるとき轉ぶと肩の節をいためることがあるから氣をおつけよ。夜は暑過ぎないやうにせぬと着せたものをぬぐから風を引くよ。

七日

やんちや殿

四〔四月十六日〕

十三日の手紙が今來た。十日のが郵便でおくれたものと見えてほとんど一しよに來た。○茉莉がろくの名をよぶやうになつたといふことだがだん〳〵かはいくなるだらう。歸る頃までにはどんなになるかとおもふよ。寫眞を見せたつてまだ何だかわかるまいね。○おとうさんがしぶやへ入らつしやるなら天氣の好い日には茉莉をつれて行くことは出來ないか。それともお粥をこしらへるのがむつかしからうかね。○賀古はおなじみの藝者の寫眞を持つてゐて見せるけれどこつちの持つてゐる寫眞は人には見せないのだ。ねえさんのが二つとおしやくのが一つと三枚あるが誰にも見せられない。茉莉の寫眞をとつたら送つておくれ。茉莉のはちとおしやくには受取れないだらう。

四月十六日夕

林

しげちやん

五〔四月十七日〕

十日の手紙が來たよ。こんどはちやあんと日づけをしたね。茉莉のはなしはかはいゝよ。あれは詩になるはなしだ。○おとうさんの進士のはなしは進士といふ人は實さいはもつと小さい侍なのが脚本でむやみにえらさうに出來て居るからそれでさうおつしやつたのだらうよ。ほんたうの日蓮の傳記では進士は夕立か何かの時に日蓮を傘の下に入れてやつた緣で信者になるといふ丈だ。○さや町から新聞の切拔を澤山送つて來たがずゐぶんおもひおもひにいろ〳〵な評をしてあるのでをかしいよ。○戰地からの手紙は月に三本としてあるから千駄木へも芝へもと出してはむつかしいわけだがそれは兵卒に對してきめたやうなものだからこつちとらはやつぱり出したいほど出すよ。併し毎日だの一日おきだのに出してはあんまり亂暴だらうからちつとは遠慮することとしようよ。○廣しまでおれが馬鹿なことでもするだらうといふやうな事がおまへさんの手紙にあつたから歌をよんだ。お前さんは歌なんぞは分らせようともおもはない人だからだめだけれどついでだから書くよ。

わが跡をふみもとめても來んといふ遠妻あるを誰とかは寐ん

追つかけて來ようといふやうな親切に云つてくれるおまへさんがあるのに外のものにかゝりあつてなるものかといふ意味なのだよ。歌といふものは上手にはなか〳〵なれないが一寸やるとおもしろいものだよ。何か一つ歌にして書いておこしてごらん。直してやるから。

四月十七日

歌よみ

遠妻殿

六〔四月二十日〕

その後はまだお前さんの手紙が來ないが用事が出來たから此手紙をあげるよ。これをごらんの時はもう舟が出て居るのだよ。荒木へは別におしらせはしないからお前さんからよろしく云つておくれ。いづれ敵地へ上陸したらなる丈早く知らせてあげるからそれ迄待つておいで。○しかしお前さんの手紙がまだ一本ぐらゐ舟にのるまでに來るだらうとおもつて居るよ。○天氣はごく好いから海はおだやかだらうとおもふよ。○これからそろ〳〵おも

しろくなるのだよ。こつちとらの上陸はきつと號外の出るやうなことをしでかすだらうとおもふから號外に氣を付けておいで。

四月二十日午後　　林

しげ子殿

七〔四月二十一日〕

今これから舟に乘るところだから一寸手紙を出すのだ。上陸したらなる丈早くしらせるやうにするから待つておいで。

四月二十一日　　林

しげ子殿

八〔五月二十一日〕

四月二十一日に宇品を立つてからは戰爭の都合で一切手紙を出すことを止められて居たから何か云つて遣りたくてもしかたがなかつた。其後そつちからも手紙を出しただらうがそれも皆宇品あたりに止めてあつてこれからまとめて送つてくれるのだからまだ何も見て居ないよ。先月内々人に賴んでおとうさまのところへ葉書を一枚出したつけが屆いたかしらん。○お前さんも茉莉も丈夫で居るだらうとは思ふが早く手紙が見たいよ。○おれは丈夫で居るから少しも案じることはない。鬚を剃るのが面倒だからちつとも剃らずに居るので顏中鬚だらけになつたから茉莉が見たらきつと泣き出すだらうとおもふよ。○おとうさまかあさま虎さんさんをさん榮ちやんなんぞによろしく云つておくれ。ろくはまだ居てくれるだらうね。

五月二十日

林

しげ子殿御許に

九〔六月三日〕

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

五月十九日のお前さんの手紙がさく日來て茉莉の寫眞も見たよ。茉莉の寫眞は大さう好く出來て居る。五月二十六日南山の戰鬪といふのがある前から今まではなか〳〵忙しくて手紙を書くひまはない。けさ一寸手がすいたから短いが此手紙を出すのだよ。荒木の皆さんによろしく云つておくれ。

六月三日朝

林

しげ子殿

一〇〔六月二十一日〕

南山で戰爭があつてからはいそがしくて困るよ。あれから得利寺といふところで又戰爭をしたことは號外で御らんだつたらう。今そのあとじまひがやつと少し片付いた處だよ。○かあさんが御病氣では困るね。どうか早く好くなればよいが。食ものを用心してもらふが好い。○千駄木から茉莉の夏もの〻切れが行つた筈だから最うこしらへてやつたらうね。茉莉の寫眞はをり〳〵出して見るとなぐさみになるよ。○博文館からこちらへ來て居る人

が先頃顔も洗はない鬚だらけのところを寫眞に寫したから其内戰爭實記とかに出すだらう。丸で熊のやうになつて居るよ。○ろくが歸つたら茉莉がさぞ困るだらう。餘ッ程好く氣をつけてやらねばいけないよ。たべものが一番大事だから何でも煮て直ぐにたべさせるやうにするが好い。○東京は今頃雨だらう。こちらはまだ雨の頃にならない。暑さもまだあまりきびしくはないよ。何と云つても百姓屋にばかし泊るのだからきたないのに閉口するよ。

六月二十一日　　林

しげ子どの

一一〔七月二日〕

この頃はなか〳〵郵便がむつかしいから誰の手紙も屆かない。だん〳〵暑い時候になるから茉莉が病氣にならなければ好いとおもつて居る。それに六が歸つたらさぞ困ることだらうとおもふよ。○こちらは此頃が梅雨の始のやうな時候で毎日雨ばかり降つて居るが同じ處に滯留して居ることが多いのでそんなに濡れるやうな事はない。虫にさされるには誰も

苦んで居るが先日から支那人の家にある大きな簞笥を倒して其上に寢るので虫がよりつかない。ご馳走は鷄と玉子位のものだ。たのしみにするものは葉まき烟草を切らさないやうにして折々一本づゝのむ位の事しきやない。○なか〳〵戰爭といふものはおもふやうにはかの行かないものだね。敵はだん〳〵引いてゆくけれど何分廣いところだからおつかけてゆく道が大へんなのだ。それで郵便の屆くのも次第に遲くなるのだよ。

七月二一日　　林

しげ子殿

一二〔七月十日〕

このごろは蓋平（ガイヘイ）といふところにしばらく泊つて居るよ。相變らず例の虫（ムシ）がいやだから今の宿では長持の上にケットを布いて寢るのだ。畫中蠅（ヒルナカハヘ）の多いわりには夜になつて蚊が出て來ないのでまだ蚊屋をつらずにすむ丈が仕合せだよ。○今とまつて居る家は植木すきでいろいろな花をつくつて居る。多くは西洋花だが其中に高さ二三尺の合歡木（ネムノキ）の鉢植があつて花

が眞盛に咲いて居るのはなか〳〵見事だ。明舟町のおとうさまに御覽に入れたいよ。○今とまつて居る家は商人丈にこれまでの百姓とちがつて富有に暮して居る。主人夫婦と父母と祖父母と三夫婦そろつて居て皆親を大切にして居るやうすはなか〳〵日本人には少いとおもふよ。ちやん〳〵にも感心なところがあるよ。○これからは舟便の都合が好くなつたから郵便もこれ迄よりは早く來るだらう。ちつと茉莉さんの事でもくはしく書いておこしておくれ。

七月十日

林

しげ子どの

一三〔七月十九日〕

六月十三日のお前さんの手紙が屆いた。廣しまに居る時の書狀二通といふのは事によるとなくなつたかも知れない。それともどこかにまぎれ込んで居ていつか來るかも知れない。ずゐぶんそんなこともあるよ。○江のしまのゆめを書いておよこしたが夢なんかあてにな

りはしないから氣にかけることはないよ。○六月の初に茉莉さんが風を引いたさうだが其後かはつたことがなければ好いとおもふよ。夜寐て居る中に冷えぬやうに氣を付けておくれ。きものをうしろまへに着せて寐かすと胸と腹とが冷えないで好いからためして御覽。○茉莉さんはもういろ〳〵な事が云へるやうになつたらう。少し手紙に書いておよこし。○かあさんの御病氣はもう直つたらう。其外の方におかはりはないか。○ろくの脚氣はどうしたね。○蓋平に大分長く居たからもうそろ〳〵動くことだらう。今居る家には虫が居なくて仕合せるよ。此邊はあつさもそんなにひどくはない。

七月十九日

林

しげ子どの

一四〔七月三十日〕

七月十一日のお前さんの手紙が來た。茉莉が次第に物がわかるやうになると見えるね。小いうちは教育なんぞと云つても別にむつかしいことはない。大概は自然に任せて置けば好

いのだ。おとなが勝手におもちやのやうに扱ふのがまちがひなのだ。賞罰は正しくせねばならぬ。併しどんなにおとなが困ることでも小兒がわるぎなしにした事を罰してはならぬ。大概は罰のはうは先づ見合せにする方がよろしい。これからおひ〳〵うるさくいろ〳〵なことを問ひたがるやうになるだらうが何遍でもくりかへして問へば一々返事をしてやるのが親のつとめだ。それをうるさいなどと云つてしかる親が世間には多いが大まちがひだ。かういふ時に面倒を見て返事をして遣ればどんな好いことをも仕込めるのだ。障子を破りおもちやをすぐにこはすやうな癖はしからずに靜にとめてやればやむ。その面倒を見ぬから亂暴なこどもになつてしまふ。○當地は隨分暑いが不相變蚊は少い。只だ蠅には苦められる。○おとうさんから何か送つて下さるさうだがなか〳〵急には屆くまい。よろしくお禮を申しておくれ。

七月三十日

林

しげ子殿

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com